

「峰山小学校の太郎太郎踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立峰山小学校

2 学年・人数

5・6年生 12人（5年生7人，6年生5人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年2月24日（水） ふるこみ（6校時） 本校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和3年3月7日（日） 9：30～10：30 南方神社境内

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

太郎太郎踊り（たろうたろうおどり・たろたろおどり）

(2) 由来

およそ500年前に五穀豊穡を願って始まったとされる田起こしと出産の様子を表した農耕劇である。県の無形文化財にも指定されている。

(3) 構成等

オンジョ（祖父）・テチョ（父）・太郎・孫・ヨメジョ・牛が登場し，仕事を休みたがる太郎とそれを諷めるテチョがユーモラスな掛け合いを行う。児童は，孫役として参加している。くわの形をした木をもち，「太郎太郎，はよ牛をひてけ。太郎太郎，はよ牛をひてけ。」と言いながら田を耕す。劇の時間は40分程度である。

5 保存会や地域との連携の具体

かつては育成会ごとに孫役の依頼や練習を行っていたが，児童数の減少とともに学校へ依頼されるようになった。練習は，ふるさと・コミュニケーション科の時間を1時間使って行っている。5・6年生が孫役として参加している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

峰山地区に伝わる，県の民俗無形文化財に指定される程の貴重な文化である「太郎太郎踊り」に孫役として参加することで，ふるさとを愛する子供達となっていくと考え，ふるさと・コミュニケーション科の内容として取り入れた。保存会の方々が学校に来て指導をしてくださるので，短時間で効果的に練習することができる。今後も文化の伝承のために，学校で協力できることはしっかりと協力していきたい。

7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5年生児童】

最初は難しいなと思ったけど、保存会の方々が優しく教えてくれたのでよかった。足が冷たくて寒かったけど、しっかり大きな声でできてよかった。

【教職員】

ふるさとの伝統芸能に参加することで、子供達が地域の方々の地域を大切に思う気持ちに気付くことができ、自分達もふるさとを大切にしようという気持ちが育った。

【保存会から】

「太郎太郎踊り」はずっと受け継いでいきたいと思っているので、今後も小学生の参加をお願いしたい。また、参加することで、地域の人々の地域に対する思いも受け継いでほしい。

【地域の方から】

伝統のある地域行事に参加することで、地域やそこに伝わる伝統や文化を大事にする子供が育つと思う。地域を大事にする子供達を育てるためにも、こういった取組は続けてほしい。